

日本霊長類学会高島賞の選考について 2025 年度日本霊長類学会高島賞選考結果報告

本年度の高島賞に対する 1 名の応募を受け、高島賞選考委員会の選考委員 6 名によって審議を行った。半谷庶務担当理事の陪席のもと、5 名の選考委員がオンライン形式で選考委員会を開催した。なお 1 名の選考委員は、オンライン会議の日程調整ができなかったため、事前に書面により意見を提出し、それをオンライン会議の際に共有して選考を進めた。選考委員会では、応募者の対象となる業績およびこれまでの研究活動全般について、関連する規程や細則等に照らし合わせ慎重に審議した。その結果、田村大也氏の業績とその内容が高島賞の選考基準に達しており、受賞者にふさわしいと判断し、選考委員全員一致で推薦することを決定した。

【田村大也氏の推薦理由】

田村氏は、2017 年からガボン共和国ムカラバードゥドゥ国立公園において野生ニシゴリラの直接観察を研究手法の軸として行動生態学的研究を行い、群れ内の社会関係や個体レベルの行動、さらに稀な現象の事例報告など、フィールドでの発想に基づいた幅広いテーマを扱ってきた。公表した著作では、以下のような点を明らかにしてきた。

著作 1 では、調査対象群の出自未成体 2 頭と移入未成体 8 頭の群れ内の社会関係を調べて比較した。その結果、シルバーバックと未成体の直接的な親和交渉は、出自・移入を問わず全くみられなかった一方、シルバーバックとの 5 m 近接の時間割合は、移入未成体よりも出自未成体の方が高いこと、そして、母親以外で近接時間割合が高い個体をみると、出自未成体はシルバーバックであったが、移入未成体の多くは前の群れで同居していた姉のオトナメスであったことを明らかにした。以上の結果から、移入未成体が調査対象群に定住する過程では、シルバーバックよりも姉のオトナメスの存在が重要であった可能性を示唆した。一方で、シルバーバックと移入未成体の日常的な近接がみられたことから、ニシゴリラのシルバーバックは、自身の子ではない未成体に対しても寛容的に振舞うことを明らかにした。

著作 2 では、シルバーバックの重要な役割とされる保護行動に着目し、シルバーバックが出自未成体と移入未成体のどちらをより外敵から保護するのかを調べた。この研究では、観察者自身を外敵に見立てる新たな方法を採用してデータ収集を試み、その結果、出自未成体は頻繁に保護対象になっていることを明らかにし、これはシルバーバックの育児努力であると解釈した。一方で、多くの移入未成体も保護対象になっており、この行動はシルバーバックの適応度上昇を説明する既存の仮説で解釈可能だと考察した。

著作 3 では、著作 1・2 で得られた成果を踏まえ、調査対象群のシルバーバックが未成体と日常的に近接し、外敵からも保護している点に着目して、「子供とただ近接する」ことを「世話」の一形態として認識できる可能性を論じた。そして従来のゴリラ研究から指摘されてきたシルバーバックによる「献身的な父親の世話」というのは現代社会の文化的要請に過ぎず、保護を目的とした父子の日常的近接が父親役割の基盤であり、そこから今日のヒトでみられる多様で柔軟な「父親による世話」が派生すると提言した。

著作 4 では、アフリカショウガの茎から髓を取り出して食べるための両手協調操作において、調査対象の 21 頭中 15 頭が右手を使用していることを明らかにし、野生大型類人猿では初めて集団レベルの右利きを検出した。この結果から、ヒトで顕著な集団レベルの右利きの進化的基盤は、言語獲得以前の両

手協調操作にある可能性を示唆した。また著作 5 では、片腕の若いオスが身体の前部に重度の外傷を負い、その後死亡した事例を報告した。状況証拠から重度の外傷の原因は種内攻撃による可能性が高いと考え、通常若いオスが身体の前部に致命傷を負う可能性は低いいため、片腕というハンディキャップが重度の外傷の大きな要因になったと推測した。

野生ゴリラを対象とした野外調査に基づく研究の成果は、近年さまざまな調査地から公表されるようになってきたが、こうした研究の多くはゴリラやその生息地の環境の保全を目的としたものが多い。そうした中、田村氏の一連の著作は、ゴリラの社会関係や行動そのものに焦点を当てたものであり、ゴリラの社会や行動の理解に大きく貢献していると考えられる。また、新しい手法を織り交ぜながら野生ゴリラを丁寧に観察し、得られたデータを緻密に分析しているという点も評価できる。一方で、群れ内の社会関係の分析が未成年個体を中心としておりその全体像の解明に至っていない点や、著作 3 における「父親」や「子育て」に関する考察に論理の飛躍がみられ物足りなさを感じるといったこともあるが、こうした問題点の解消は今後の研究の進展に期待したい。以上より、田村氏は霊長類に関する優れた著作を著わしており、今後の活躍も期待できることから、氏を高島賞の受賞者として推薦する。

審査対象著作

1. Tamura M, Akomo-Okoue EF, Mangama-Koumba LB, Wilfried EG, & Mindonga-Nguelet FL. Does kinship with the silverback matter? Intragroup social relationships of immature wild western lowland gorillas after social upheaval. *Primates*, 65, 397–410. August 2024.
DOI: <https://doi.org/10.1007/s10329-024-01149-1>
2. Tamura M, Akomo-Okoue EF, Mangama-Koumba LB, Wilfried EG, & Mindonga-Nguelet FL. Protection service of a leading silverback male from external threats in wild western gorillas. *Folia Primatologica*, 95 (3), 251–260. July 2024.
DOI: <https://doi.org/10.1163/14219980-bja10026>
3. 田村大也. ただ近くにいる 同所性の根源的意味—何もしない父親の子育て. 『社会性の起原と進化 始論 種と性を越えた比較研究のために』河合香吏 (編), 京都大学学術出版会, 京都, pp. 93-117. 2025 年 3 月.
4. Tamura M & Akomo-Okoue EF. Hand preference in unimanual and bimanual coordinated tasks in wild western lowland gorillas (*Gorilla gorilla gorilla*) feeding on African ginger (Zingiberaceae). *American Journal of Physical Anthropology*, 175 (3), 531–545. January 2024.
DOI: <https://doi.org/10.1002/ajpa.24227>
5. Tamura M, Wilfried EG & Akomo-Okoue EF. Death of a one-armed blackback male due to severe injuries in a group of wild western lowland gorillas (*Gorilla gorilla gorilla*) in Moukalaba-Doudou National Park, Gabon. *Primates*, 65, 223–228. May 2024.
DOI: <https://doi.org/10.1007/s10329-024-01138-4>

2025 年度高島賞選考委員会委員長